

学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	則 包 和 也
2. 審査委員	主 査：（鳴門教育大学教授） 津田芳見 副主査：（鳴門教育大学教授） 山下一夫 委 員：（兵庫教育大学教授） 有園博子 委 員：（鳴門教育大学教授） 葛西真記子 委 員：（鳴門教育大学准教授） 大谷博俊
3. 論文題目 統合失調症患者の幻聴症状を把握する面接の実践と効果検証 -認知行動療法の導入と自己対処を援助する看護を目指して-	
4. 審査結果の要旨 学校教育実践学専攻学校教育臨床連合講座 則包和也から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。 論文審査日時：平成26年2月1日（土） 18時00分～18時30分 場所：鳴門教育大学 人文棟6階 A3会議室 1. 学位論文の構成と概要 本論文は、以下に示す6章、全 18節から構成されている。 第I章 序論 第II章 研究1 統合失調症患者が行っている幻聴への対処について 1 背景と目的 2 研究方法 3 結果 4 考察 第III章 研究2 幻聴が及ぼす影響を多角的に評価する面接マニュアル「ホットチャート」の実践－認知療法の視点を取り入れた幻聴のアセスメント－ 1 背景と目的 2 研究方法 3 結果 4 考察 第IV章 研究3 『幻聴がある統合失調症患者への面接マニュアル「ホットチャート」を用いた面接の効果の検証－精神科看護師の認知・感情・対処の評価から－』 1 背景と目的 2 研究方法	

3 結果

4 考察

第V章 研究の総括と考察

1 研究1のまとめ

2 研究2のまとめ

3 研究3のまとめ

4 幻聴を訴える患者への効果的な看護についての考察

第VI章 結語

各章ごとの論文概要は以下に示すとおりである。

第I章では、本論文の問題の背景と目的、および本論文の構成が述べられた。本研究の背景として、統合失調症患者の幻聴症状、それに関する看護の現状と問題について述べ、本研究の目的を示した。本論文は、研究1, 2, 3の3研究から構成され総括と結語で構成されている。

第II章 研究1 統合失調症患者が行っている幻聴への対処については、統合失調患者が行っている幻聴への対処の特徴を明らかにし、認知行動療法の導入に活かしていく示唆を得ることを目的とした。得られたデータの分析を行い、幻聴への対処を情動中心の対処と問題中心の対処に分類した。情動中心の対処は、幻聴に対して相反する方法で対処していた。問題中心の対処は、幻聴に対して冷静かつ論理的な方法で対処していることが明らかとなり、認知行動療法を導入する際には、これらの対処を患者と共有しながら行うことが重要であると推測された。

第III章 研究2 幻聴が及ぼす影響を多角的に評価する面接マニュアル「ホットチャート」の実践－認知療法の視点を取り入れた幻聴のアセスメント－では、認知療法の理論を用いて、幻聴に対する患者の認知と幻聴が及ぼす影響を多角的に把握することを目的とした。急性期の入院患者より、「得られたデータを分析し、幻聴が発生する状況や、内容・認知、感情、身体、行動に及ぼす影響、対処について一連の過程として段階的にとらえることができ、幻聴に関することを患者と看護師が共有することにより、個別性を活かした看護につながると考えられた。また、幻聴への対処の有効性や問題点について把握することができ、効果的な看護を行うための重要な情報を得ることが可能と考えられた。

第IV章 研究3 幻聴がある統合失調症患者への面接マニュアル「ホットチャート」を用いた面接の効果の検証－精神科看護師の認知・感情・対処の評価から－により、精神科看護師に対して、「ホットチャート」を使用した面接を依頼し、幻聴の訴えに対する看護師の認知・感情・対処に及ぼす影響について検討し、幻聴を訴える患者への看護に対する示唆、すなわち幻聴に対する看護に負担感の軽減、患者への能動的かかわりにつながることが示された。

第V章 精神科看護では、患者の幻聴症状について患者に起こって問題を多角的にとらえる必要があるが、認知行動療法の視点を取り入れた面接マニュアル「ホットチャート」を用いた面接により、より個別性を踏まえた看護につながる可能性が示唆されたことを結論

とした。

2. 審査経過

(1) 研究目的の妥当性及び研究目的と論文構成の整合性について

本研究は、統合失調症患者の幻聴症状に関して自己対処を援助する看護をテーマとし、認知行動療法の視点における面接の実践と効果検証を課題としていた。研究の背景と問題の提起から研究の目的、方法への導き方、実践に基づいたデータの収集と分析、その考察とまとめ、いずれの段階も論理的であり、詳細で精度の高い実証的研究が行われていた。研究としての問題の所在から導き出された研究目的の設定は妥当であり、本研究はそれらに沿った論文構成となっていた。

(2) 研究方法について

研究1で作成した面接マニュアル「ホットチャート」は、従来の精神科看護にはなかった認知行動療法的視点を取り入れた点で独創性が高く、症状を多面的に把握でき、患者と看護師で共有化できる設定となっていた。研究2では、患者に実践研究することにより、幻聴への効果的な看護を行うための重要な情報を得ることが可能と考えられた。研究3では、看護師と患者を対象に、「ホットチャート」の効果の検討を行った。看護師については、能動的な効果、消極的な効果も証明されたが、患者に関する効果については、これからの課題と考えられた。いずれについても明確に記述され、結果の処理、及び分析の手続きは詳述されており、客観的、且つ論理的であった。

(3) 学位論文としての独創性及び発展性について

本研究においては、認知行動療法の視点を取り入れた面接マニュアル「ホットチャート」を作成し、実践的研究を通して効果を検討したところに高い独創性を評価した。また、統合失調症の幻聴に対処する方法として、精神看護および看護教育の分野でこれからの発展が期待される点も高く評価された。

このように、高い独創性と発展性をもった研究知見が導き出された本研究は、精神看護や看護教育の分野、さらには、地域社会においても大きく貢献するものと判断された。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は、則包和也の提出した学位論文が博士（学術）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。